

教科書検討の 観点から見た特色

観点別・編集の特色

1 教育基本法との関連	39
2 学校教育法との関連	40
3-① 学習指導要領との関連(目標への対応)	41
② 学習指導要領との関連(内容9項目への対応)	42
4 主な構成・配列	44
5-① 学習指導要領総則との関連における特長的な構成	47
② 様々な教育活動との関連における特長的な構成	50
6 正確性及び表記・表現	51
7 造本	52
8 学習指導要領との対照表	53

キーワード索引

● 資質・能力の三つの柱	40, 41, 42, 47, 48	● 交流、伝え合い	43, 44, 47
● 主体的・対話的で深い学び、気付きの質を高める	39, 40, 45, 49, 50	● 自分の成長、振り返り	41, 44
● カリキュラム・マネジメント	44, 48	● 学習基盤(言語活動の充実、情報活用能力、問題発見・解決能力)	49
● 単元構成	44, 48, 49	● 国際理解・伝統文化	39, 50, 51
● スタートカリキュラム(幼児教育との関連)	40, 42, 46, 49, 52	● 特別支援教育	50, 52
● 他教科等との関連・接続	46, 48, 49	● 人権、福祉	39, 50, 52
● 道徳教育との関連性	39, 47	● 環境教育、ESD、SDGs	39, 51, 52
● 防災・安全、健康・衛生	45	● 現代的な諸課題	39, 49, 50, 51, 52
● 自然の不思議さ、面白さ	39, 43, 44, 45, 46	● ユニバーサルデザイン	52
● 命の大切さ	39, 43, 44, 46	● プログラミング教育	49
● 地域、家庭との連携	42, 43, 45, 46, 50	● オリンピック・パラリンピックとの関連	51
● 地域や人との関わり	39, 42, 43, 45, 46, 50	● 教科書デジタルコンテンツ	45

1 教育基本法との関連

基本法第2条(教育の目標)

特に意を用いた点や特色

1	<p>第1号 幅広い知識と教養を身に付け、真理を求める態度を養い、豊かな情操と道徳心を培うとともに、健やかな身体を養うこと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・低学年児童の学習活動の基本となる興味・関心を重視し、楽しさや親しみ、驚きや感動、不思議さや好奇心を呼び起こし、具体的な活動が発展していくような構成となっている。 ・代表的な例として、大単元である「きせつと あそぼう」のように、四季を通した活動や振り返りの活動を繰り返し丁寧に扱い、以前と比較したり、何かにたとえたりするような活動を通して、子どもの気付きの質をより高め、豊かな情操が培われるような構成となっている。 <p>上巻 p.4-33, 48-63, 74-91, 102-113, 136-141 など 下巻 p.10-21, 62-79, 80-99 など</p>
2	<p>第2号 個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うとともに、職業及び生活との関連を重視し、勤労を重んずる態度を養うこと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全体を通して児童一人ひとりの意欲を喚起し、主体的・積極的に取り組むような構成になることを重視しており、そのことが本書の特色の一つとなっている。 ・「わたしは～したい。」という子どもの思いや願いを大事にした展開となるように工夫されている。例えば、下巻「町たんけん」では、いろいろな人とふれあう活動の中で、出会った人にもっとこんなことを聞いてみたい、次はこんなことをしてみたい、といった自分の思いや願いをもち、和菓子屋やアイサービスセンター、地域センターなど身近で働く人取材するという構成になっている。 <p>上巻 p.34-47, 64-91, 114-123, 132-133, 134-135, 142-143 など 下巻 p.4-9, 10-21, 40-43, 62-79, 80-99, 100-111, 114-125 など</p>
3	<p>第3号 正義と責任、男女の平等、自他の敬愛と協力を重んずるとともに、公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うこと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全体を通して人権、福祉、男女平等への関心を喚起する内容となるように構成されている。特に、高齢者や幼児、障がいのある児童とふれあう機会が多くなるよう留意されている。さらに、関連する施設や設備等への関心を促すような構成となっている。 ・児童自らが社会の構成員であることを認識するための活動として、家庭の中での役割を取り入れた構成になっている。 ・男女平等の視点から、紙面に登場する児童の男女割合が等しくなるよう配慮されている。 <p>上巻 p.17, 20, 50-51, 69, 76-77, 90-91, 92-99, 104-105 など 下巻 p.10-21, 62-79, 102-103, 132-135 など</p>
4	<p>第4号 生命を尊び、自然を大切にし、環境の保全に寄与する態度を養うこと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が身近な自然の不思議さや面白さを実感しながら、遊びや活動に使うものを自ら見出したり、工夫したりしながら活動をより充実させ、併せて環境保全の態度や科学的な見方・考え方の基礎が養われるように構成されている。 ・特に生き物の生育や環境への気付きを促すことで、楽しさ、驚き、不思議さなどを感得し、記録したり、表現したりしながら生命尊重と自然愛護の心情が芽生えるように配慮されている。 ・動物を飼ったり、植物を育てたりする活動を継続することによって、生き物への親しみや生命の尊さを実感できる構成になっている。 <p>上巻 p.34-47, 48-63, 66-73, 74-91, 100-113, 131, 136-141 など 下巻 p.22-39, 44-61, 80-99, 114-115, 122, 128-129, 130-131 など</p>
5	<p>第5号 伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な人々や場所との関わりや、公共物や公共施設を実際に利用する活動を通して、町にはみんなが安心して生活できる工夫があることを知ったり、「町のすてきな人」と出会って自分の町がもっと好きになったりするなど、地域のよさに気付き、親しみや愛着がもてるような構成になっている。例えば、高齢者や地域の人から昔の遊びを教わるなどの活動を取り入れることで、伝統遊びや地域文化を体験できる構成などがあげられる。 ・また、国籍、年齢問わず多様な人々とのふれあいを通して、他者を尊重する態度とあわせてともに生きていくという考えを培い、異なる文化や習慣をもつ人々と親しく交流するような構成にも配慮されている。例えば、国際理解の立場に立って、他国由来の祭りを紹介するなどがあげられる。 <p>上巻 p.18-33, 47, 50-51, 76-77, 90-91, 100-101, 104-105 など 下巻 p.10-21, 62-79, 100-111, 126-127 など</p>

2 学校教育法との関連

	学校教育法 22 条 (幼稚園教育)	特に意を用いた点や特色
1	幼稚園は、義務教育及びその後の教育の基礎を培うものとして、幼児を保育し、幼児の健やかな成長のために適当な環境を与えて、その心身の発達を助長することを目的とする。	<ul style="list-style-type: none"> ・特設されたスタートカリキュラムのページは、幼児期の学びを生かし、安心して学校生活を送ることができるよう配慮されている。上巻 p.4-17 ・「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」をもとにスタートカリキュラムを進めていけるよう、継続的な単元としての構成がなされている。また、次の例をはじめとして、10の姿すべてに対応している。 【10の姿に照らしたスタートカリキュラム“ゼロからのスタートじゃない”】 －幼児期に育った力(10の姿)を生かす活動の工夫がなされている。 －協調性 上巻 p.6-7 など －自立心 上巻 p.8-9 p.10-13 (学び合い) など －言葉による伝え合い 上巻 p.12-13, 14-15 など ※本冊子 p.20-21 参照
	学校教育法 23 条 (幼稚園教育)	※抜粋
2	幼稚園における教育は、前条に規定する目的を実現するため、次に掲げる目標を達成するよう行われるものとする。 (以下5領域について) ・健康 ・人間関係 ・環境 ・言葉 ・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育の基本である5領域を受け、保幼小連携・接続のスタートカリキュラムが展開されている。上巻 p.4-17 【幼児教育の基本】環境を通して行う教育、遊びを通して行われる総合活動という小学校教育との違いを、縦のつながりを滑らかに、かつ連続的な成長を促す観点から構成されている。 幼児期の経験を生かした活動を通して、安心して、健康に学校生活を始められるようになっている。上巻 p.6-7, 16-17 主体的に行動できる人間関係の形成を促す内容になっている。上巻 p.8-9, 10-11 幼児期に培った言葉や表現を生かした活動を意識的に取り入れている。上巻 p.12-15 幼児期の環境を通して育んだ好奇心や思考力の芽生えを生かした活動を取り入れている。上巻 p.12-13
	学校教育法第 30 条 第2項	※抜粋・要約
3	基礎的な知識及び技能の習得	<ul style="list-style-type: none"> ・教科の目標や内容を確実に達成できるよう、また、活動への意欲を喚起するための単元名や見出しの工夫がなされている。 各単元扉ページ、及び小単元左上のタイトルと、その下にある子どもの思いや願い ・学習技能の習得や学習方法の理解につながる資料が、単元内や巻末に豊富に掲載されている。上巻 p.54-55, 62-63, 80-81, 89, 112-113, 126-143 など 下巻 p.20-21, 38-39, 52-55, 90-93, 114-135 など
4	習得した知識や技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力、その他の能力の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・思考力、判断力、表現力等を高めるために「見つける」「比べる」「たとえる」「試す」「見通す」「工夫する」などの学習活動が示されている。上巻 p.37, 39, 41 の学習カード及び「学びのまど」など各単元の学習場面、130 など 下巻 p.114-115 など ※本冊子 p.12-13 参照。 ・活動を振り返ったり、他の人たちと伝え合ったりする活動が適切に位置付けられている。上巻 p.114-123 下巻 p.72-79, 100-111 など ・気付きの質を高めるための教師の指導や支援について、その方法や具体例(立ち位置・表情など)が示されている。上巻 p.30, 56-57, 86-87 など 下巻 p.6, 12, 18, 58-59, 94-95 など
5	主体的に学習に取り組む態度の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・扉ページには、子どもが自ら学習課題に主体的に取り組みたくするような写真を選択し、単元内では、活動の様子がイメージできる写真やイラストを効果的に配置している。上巻 p.18-19, 34-35, 66-67, 102-103 下巻 p.10-11, 22-23, 44-45, 62-63, 80-81 など ・主体的な活動や対話的な活動を通して深い学びにつながる学習活動が展開できるよう、上・下巻、児童の発達の段階に応じて例示されている。学校単元 上巻 p.18-33 と町探検単元 下巻 p.10-21, p.62-79 栽培単元 上巻 p.34-47, 下巻 p.22-39 飼育単元 上巻 p.66-73, 下巻 p.44-61 など ・生活科の教科目標にある「自立し、生活を豊かにしていく」を主体的に達成しようとしている態度・姿が示されている。上巻 p.92-99 下巻 p.78-79, p.100-111

3-① 学習指導要領との関連 (目標への対応)

	観点	【日文】「わたしとせいかつ」(上・下)の構成とその対応
1	教科目標の趣旨(1) 具体的な活動や体験を通すこと ●具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・見る、聞く、触れる、つくる、探す、育てる、遊ぶなどの直接はたらきかける学習活動を通して、発達の段階やその単元に応じた無理のない展開がなされており、具体的な活動や体験を通して考えたり行動したりすることができるようになっている。 上巻 p.34-57, 83-90 など 下巻 p.22-35, 44-51, 80-99 など ・発達の特性に合わせて双方向性のある活動を行い、対象とのやり取りを通して、資質・能力の育成を図っている。 上巻 p.92-99, 120-121 など 下巻 p.8-9, 14-19, 68-71 など
2	教科目標の趣旨(2) 身近な生活に関わる見方・考え方を生かすこと ●具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・自身の生活を、身近な社会や自然、人との関わりで捉え、よりよい生活に向けて思いや願いを実現するための内容が記されている。 上巻 p.59, 91, 98-99, 100-101, 122 など 下巻 p.20-21, 58-59, 73-79, 100-111 など ・具体的な活動を通して、よりよい生活に向けて「思考」や「表現」を一体的に繰り返すことで、自立して生活を豊かにしていくための資質・能力の育成が図られている。 上巻 p.73, 96-99 など 下巻 p.10-21, 100-111 など
3	教科目標の趣旨(3) 自立し生活を豊かにしていくこと ●具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・学習上の自立を目指して、興味・関心を持ち、自ら進んで学び、自分の思いや考えなどを様々な方法で表現している。 上巻 p.30-31, 43, 56-57, 110-111 など 下巻 p.50-51, 88-89 など ・生活上の自立を目指して、必要な習慣や技能を身に付け、身近な人々や社会、自然と関わり、よりよい生活をつくり出すための工夫がなされている。 上巻 p.96-99 など 下巻 p.18-19, 34-35, 50-51, 74-75, 96-97 など ・精神的な自立を目指して、学習上、生活上の自立に向き合い、自分のよさや可能性に気付き、意欲や自信をもって今の自分、将来の自分と向き合うことができるような構成になっている。 上巻 p.98-99, 114-123 など 下巻 p.16-17, 78-79, 100-111 など
4	知識及び技能の基礎 ●生活上必要な習慣や技能を身に付けるようにしているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・諸感覚を通して自覚化された気付きが相互に関連付いたり、これまで体験してきた事柄と合わさったりして、他教科の学習や実生活で役立つような配慮がされている。 上巻 p.52-53, 58, 78-79, 106-107 など 下巻 p.26-29, 48-51, 64-65 など ・集団における自分の存在や自分のよさ、自分の得意としていることや興味・関心をもっていること、自分の心身の成長に気付くことができるような構成になっている。 上巻 p.96-99, 114-123 など 下巻 p.94-98, 100-111 など ・思いや願いを実現する過程において適切な習慣や技能を身に付けることができ、その習慣や技能を実社会や実生活で活用できるように工夫されている。 上巻 p.22-31, 48-49, 56-57, 74-75, 90-91 など 下巻 p.16-21, 72-79 など
5	思考力、判断力、表現力等の基礎 ●自分自身や自分の生活について考え、表現することができるか。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いや願いを実現するために何をどのようにするか考え、実際に取り組むとともに次の活動へつなげる工夫がなされている。 上巻 p.30-31, 36-37, 86-87 など 下巻 p.24-25, 40-43, 46-47, 94-95 など ・身近な人々、社会や自然と自分との関わりをとらえ、相手意識、目的意識をもって表現できるような構成になっている。 上巻 p.72-73, 118-119 など 下巻 p.94-95, 106-107 など ・見つける、比べる、例えるなどの学習により、分析的に考えたり、試す、見通す、工夫するなどして創造的に考えたりすることができるような構成になっている。 上巻 p.68-69, 104-105 など 下巻 p.30-31, 84-85, 88-89 など ※本冊子 p.12-13 参照 ・気付いたことや考えたことなどをいろいろな方法で伝え合ったり、振り返ったりして表現することができるような構成になっている。 上巻 p.30-31, 96-99, 118-119 など 下巻 p.34-35, 72-79, 100-111 など

6	<p>学びに向かう力、人間性など</p> <p>●身近な人々、社会及び自然に働きかけ、意欲や自信をもって学んだり、生活を豊かにしようとする態度を養っているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 思いや願いに基づいて、身近な人々や社会及び自然に自ら近づき、期待感をもってはたらきかけることで満足感や達成感を得られる。また、そのことで自分自身の変容や成長を捉え、自分自身について深めるとともによさや可能性についても気付くことができるような構成になっている。 ・ 意欲や自信をもって学んだり、生活を豊かにしたりする経験を繰り返すことで安定的な態度を養うことができるような構成になっている。上巻 p.40-46, 58-59, 83-88, 110, 116-117 など 下巻 p.98-99, 104-105, 110-111 など ・ 意欲や自信をもって学んだり、生活を豊かにしたりする経験を繰り返すことで安定的な態度を養うことができるような構成になっている。上巻 p.88, 98-99 など 下巻 p.34-35, 50-51, 58-59, 68-71, 76-79 など
7	<p>学年の目標の及び内容</p> <p>(1) 学校、家庭、地域の生活に関すること</p>	⇒ p.42 1～3参照。
8	<p>学年の目標の及び内容</p> <p>(2) 身近な人々、社会及び自然にふれあったり関わったりすること</p>	⇒ p.43-44 4～8参照。
9	<p>学年の目標の及び内容</p> <p>(3) 自分自身を見つめること</p>	⇒ p.44 9参照。

3-② 学習指導要領との関連 (内容9項目への対応)

観点の内容	観点への対応 (構成と表現の工夫)
1 学校と生活	<ul style="list-style-type: none"> ・ 具体的な活動の様子や施設・設備を写真や図で示し、子どもも具体的なイメージがもてるようになっている。 ・ 写真や図に対応して、子どもたちに気付かせたい内容や思いを吹き出しや欄外のコメントで示すことで、気付きを促すように配慮されている。 ・ スタートカリキュラムにおいては、登下校から学校生活全般について、子どもたちに気付かせたい・注意させたい内容が、具体的な写真やコメントで明示されている。 ・ 「がっこうを たんけんしよう」(学校単元)の最初のページでは、探検する子どもの姿を大きく取り上げ、単元の内容に対する好奇心を高めるように配慮されている。 <p>上巻 p.4-17, 18-33</p>
2 家庭と生活	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族の構成、男女の役割等に配慮し、多様な家庭の状況に対応できるようになっている。 ・ 吹き出しや欄外のコメントに加え、子どもたちが活用する学習カードの例が掲載されている <上巻 p.97>。そこには、したこと・気付いたことにとどまらず、活動後の感想や保護者からのコメント欄が設けられ、「振り返り(リフレクション)」を意識できるようになっている。 ・ 生活の規則性については、時系列に沿って自分と家の人の活動の変化を対比的に構成し <上巻 p.94-95>、生活の流れ・リズムに気付けるように配慮されている。 <p>上巻 p.4-17, 64-65, 92-99, 126-127, 134-135, 140-141 下巻 p.40-43, 100-111, 124-125, 126-127</p>
3 地域との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 季節ごとに、身近な公園において地域の人や公園で働いている人、公園を利用している人との関わりが取り上げられている。上巻 p.50-51, 76-77, 104-105 ・ 季節ごとに、発展的な扱いとして地域へ出かけて活動する内容が示されている。上巻 p.47, 91, 101 ・ ウェビング <下巻 p.12>、Yチャート <下巻 p.18> などを活用した板書、地域センター内部のパノラマ <下巻 p.14-15> などを掲載し、地域との関わりをわかりやすくしたり、子どもが活動を通して気付きを得られるページ構成をしたりといった配慮がなされている。具体的な思考ツールの活用例を示すことによって、「主体的・対話的で深い学び」の具現化が図られている。 ・ 地域の人との関わり方や安全については、上巻 p.16-17 において、図と吹き出し・コメントなどで視覚的に理解できるように配慮されている。下巻 p.10-21, 62-79

観点の内容	観点への対応 (構成と表現の工夫)
4 公共物や公共施設の利用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 季節ごとに、身近な公園において、地域の人や公園で働いている人、公園を利用している人との関わりが取り上げられている。 ・ 季節ごとに、発展的な扱いとして地域へ出かけて活動する内容が示されている。上巻 p.47, 91, 101 ・ 「公共」を意識できる場面を写真とコメントで示し、具体的なイメージがもてるように配慮されている。 ・ 単なる見学や、担当者からの聞き取りにとどまらず、本の整理やポスターづくりなどの体験活動例を紹介し、体験活動を通して気付きが重視されている。 ・ 見学のマナー等については、本文 <下巻 p.13-15> において、側欄にまとめて提示し、注意を喚起するよう配慮されている。 <p>下巻 p.10-21, 132-133</p>
5 季節の変化や地域の生活・自然	<ul style="list-style-type: none"> ・ 季節ごとにフィールドワークの単元を設定し、季節の動植物の特色及び子どもたちの気付きや振り返り例を掲載し、内容のポイントや活動の流れがわかりやすく提示されている。 ・ 季節の動植物の紹介にあたっては、大きく、正確に提示され、特徴がわかりやすくなっている。 ・ 振り返りの授業における板書例 <上巻 p.56-57> を示してあり、「なかま分け」「比べる」といった子どもたちの思考力の向上につながる指導のあり方が示唆されている。 ・ 季節の変化 <上巻 p.140-141> や季節の変化による生活の変化 <下巻 p.126-127> のように、見開き2ページにわたるページ構成で、それぞれの特色や変化をわかりやすく捉えられるようになっている。 <p>上巻 p.32-33 (春), 48-65 (春から夏), 74-81, 91 (秋), 101-109 (冬), 110-113 (季節の変化), 136-139 (季節の生き物図鑑), 140-141 (季節の図鑑) 下巻 p.36-37 (秋冬の野菜), 40-43 (夏休みの生活), 126-127 (季節の変化とくらし図鑑)</p>
6 身近な自然やものを使った遊び	<ul style="list-style-type: none"> ・ 吹き出しや側欄のコメントなどを通して、事実把握だけでなく、自分なりの受け止め方や感想を明示することによって、言語的な表現が高まるように配慮されている。 ・ おもちゃ図鑑の中に、おもちゃの種類とつくり方 <下巻 p.90-93> や用具の使い方など <下巻 p.120-121> を示し、子どもの主体的な活動をサポートできるようになっている。 ・ 本文では、活動(回す・くっつける・ひきはなす・つめこむなど)や材料(風・じしゃく・ふく力・ゴムなど)の具体例や工夫例が図や吹き出し・コメントで明示され、おもちゃづくり・おもちゃ遊びのポイントが意識しやすくなっている。 ・ あそびの広場 <下巻 p.96-97> では、全体の様子をパノラマのように図示して、安全に配慮したコーナーの設置や、壊れたおもちゃに対応できる「道具・修理コーナー」の設置など、実際の活動を実施する際の留意事項が意識できるような構成になっている。 <p>上巻 p.48-65, 74-91, 101, 102-113 下巻 p.80-99</p>
7 動植物の飼育・栽培	<ul style="list-style-type: none"> ・ たね→は→つぼみ→はな→活用例 <上巻 p.34-46> が示され、植物の成長・変化を捉えやすくなっている。 ・ 植え方、世話の仕方、観察の仕方、まとめ方などにおいて、本文中や図鑑等で、絵やコメントを活用してわかりやすく提示されている。 ・ 栽培活動においては、上巻でアサガオを中心にヒマワリ・マリーゴールド・フウセンカズラなどの花、下巻ではミニトマト・キュウリ・オクラなどの野菜、というように、子どもたちの発達段階に応じた身近で世話をしやすい題材が紹介されている。 ・ 飼育活動において、上巻ではウサギ・モルモットなどの哺乳動物、カエルなどの両生類、トンボ・ダンゴムシなどの昆虫との関わりを、下巻では同様の生き物を飼育・観察に重点を置いて取り上げ、生命や成長を段階的にとらえていくように配慮されている。 <p>上巻 p.34-47, 66-73, 131, 136-139 下巻 p.22-37, 38-39, 44-61</p>
8 生活や出来事の交流・表現 ※ p.44 へつづく	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各単元で導入、振り返り場面を具体的に示し、自ら課題を見つけたり、振り返って学習内容の定着を図り、次の課題を見つけたりするという展開が繰り返し示されている。 <p>上巻 p.74-75, 86-87 など、下巻 p.24-25, 34-35 など</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 伝え合い、交流するための知識及び技能の基礎となる内容が巻末の図鑑でわかりやすく示され、いつでも活用

8	生活や出来事の交流・表現	<p>できるようになっている。</p> <p>上巻 p.126-129 下巻 116-119</p> <ul style="list-style-type: none"> 身体表現<上巻 p.72>、展示方式<上巻 p.82, 102, 110>、発表会<下巻 p.72-73, 76-77>、テーマパーク<下巻 p.96-97>のように、多様な方法が紹介されている。また、図鑑においても、発表の仕方や構成の仕方について紹介されている<下巻 p.116-117>。 <p>上巻 p.30-31, 45, 72, 90, 98-99 など 下巻 p.18-19, 34-35, 42-43, 54-61, 72-79, 96-99, 108-111, 116-117 など</p>
9	自分の成長	<ul style="list-style-type: none"> 上巻スタートカリキュラムのページで、幼稚園での既習体験を思い出しながら、自分ができるようになったことに積極的に取り組むことで、自信をもてる場面が用意されている。上巻 p.6-9, 12-13 他者から認めてもらう→肯定的に自分のよさや成長をまとめる→互いに認め合う交流の場の構成→これからの自分の成長への喚起という、必然的で学習価値の高い構成となっている。 <p>上巻 p.92-99, 114-123 など 下巻 p.100-111 など</p>

4 主な構成・配列

観点の内容		観点への対応（構成と表現の工夫）
1	年間の活動計画という観点で、わかりやすい構成になっているか。	<ul style="list-style-type: none"> 上巻のスタートカリキュラムと下巻最初の単元、「2年生が はじまるよ」のつながり、上巻で季節ごとのフィールドワークが繰り返されること、下巻で町探検が2部構成になっていて段階的に社会科との関連が図られていることなど、無理なく「学びの連続性」が担保されている。 生活科の2年間だけでなく、幼児教育から3年生までを見通した内容構成となっている。 <p>上巻 p.48-65, 74-91, 102-113 (季節ごとのフィールドワーク) など。*本冊子 p.18-19 参照。</p> <ul style="list-style-type: none"> 栽培単元は、上巻で草花(自分の育てる花に関心をもつ、開花の喜びを味わう)、下巻で野菜(みんなで育てる、より科学的な見方を養う。食べ物、流通、といった3年生社会科へつながる観点も示されている)を中心に扱い、発達の段階を考慮した必然的で無理のない単元構成となっている。同様に飼育単元では、上巻は情緒的な観点を中心に、下巻はより科学的、研究的に扱い、2年間の栽培・飼育活動を通して命の大切さや自然の不思議さ、面白さを感得でき、3年生理科へスムーズに接続できる構成となっている。 <p>上巻 p.34-47 (草花栽培)、下巻 p.22-39 (野菜栽培)、上巻 p.66-73 (飼育：生き物と仲良く)、下巻 p.44-61 (飼育：生き物の博士)</p> <ul style="list-style-type: none"> 下巻では、町探検を2部構成とし、1部では公共施設の利活用を通して町探検のノウハウを習得、2部ではグループごとに課題をもって人と関わり、人や町の素敵さ、よさに気付ける構成となっている。これらの学習活動によって、段階的に3年生社会科へ無理なくつながる構成となっている。 <p>下巻 p.10-21 (町探検1：公共施設)、p.62-79 (町探検2：グループ探検)</p>
2	各単元の流れはわかりやすくなっているか。	<ul style="list-style-type: none"> 一つの単元は基本的に、課題設定→活動→振り返りという構成になっており見通しが立てやすい。例えば、栽培単元では多様な品種を提示し、子どもたち一人ひとりの思いや願いが活かされるようにするとともに、発達の段階に合わせて対象を変えるように配慮されている。また、ゆとりをもって活動や体験ができるよう、年間を見通した継続的な栽培活動が行われるよう配慮した構成となっている。 <p>上巻 p.34-47 下巻 p.22-39 *上記で説明した単元を一例として表示。</p>
3	小単元(見開き単位)ごとの活動内容は見通しが立てやすくなっているか。	<ul style="list-style-type: none"> 小単元(見開き単位)では、授業の流れを重視した課題解決型の学習展開(導入→展開→振り返り)が基本となっている。例えば、上巻 p.36-37、栽培単元の「そだてる はなを きめよう」では、本時のめあて(板書)をイメージした見開き左上のページタイトル、及び見開き左下に示された資質・能力の三つの柱に基づいた学習のめあてをおさえることで、教師はこのページのねらいをすぐにつかむことができるようになっている。そして、ページの左から右へとストーリーが展開するので、より活動の流れが把握しやすくなっている。 板書は上・下巻ともに、単元の課題をつかみやすく、教師や子どもが学びを広げたり深めたり、まとめたりする活動につなげることができるようになっている。 <p>上巻 p.36-37, 56-57, 86-87, 98-99, 120-121 下巻 p.12-13, 18-19, 24-25, 50-51, 74-75, 94-95, 104-105 *一例として表示。本文ページ全ての見開きが、基本的にこの構成となっている。</p>

観点の内容		観点への対応（構成と表現の工夫）
4	より効果的な授業をするための配慮がされているか。(教科書デジタルコンテンツ)	<ul style="list-style-type: none"> 教科書のデジタルコンテンツマーク(Dのマーク)が付されたページには、内容に関連するデジタルコンテンツが日本文教出版 Web サイト(https://www.nichibun-g.co.jp/2020dc/sei/)より提供されている。 <p>例：教科書に掲載されているすべての学習カードのフォーマットがWord、Excel、一太郎形式で提供されている。生き物、植物、木の実や葉の図鑑ページに掲載されているイラストの素材、生き物の鳴き声、野菜づくりの動画、町探検の白地図が作れるツールなどがページ内容に応じて提供されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習効果が高い場面でのICTの活用が、各単元で発達の段階に応じて適切な方法で示されている。 <p>上巻 p.30-31, 36, 79, 116 など 下巻 p.18, 58, 66, 72, 77, 108-109, 123 など</p>
5	活動や体験を通じた気付きの質を高める指導への配慮がされているか。	<ul style="list-style-type: none"> 気付きの質を高める指導の手立て「テーマをつくる、計画する、準備する、探す、見る、聞く、調べる、挨拶する」などの問題解決のスキル(自立と協働のスキル)を、活動や体験の中で繰り返し活用して身に付けていくプロセス、及び単元末に行う振り返りの活動が重視されている。また、低学年の子どもたちでも活用できるような思考ツールや発想法を取り入れ、友だちとともに活動することによって刺激され、対象とするものとの関わりが深まり、気付きの質が高まっていくように配慮した構成となっている。 「学びのまど」(学習活動を振り返り、つなげるコーナー。見開き右下に配置)は、確かな学びを確認するとともに、気付きの質を高めていく過程として位置付けられており、振り返って学びを深め、定着させるだけでなく、次への課題を見つけた(学びに向かう力)、自分の生活や家庭、他教科へつなげたりするという役割がある。導入、学習展開とあわせて、学びのまどや学習カードに例示された内容を踏まえていくことで、無理なく主体的・対話的で深い学びにつながるような構成となっている。 <p>上巻 p.21, 23, 25, 27, 29, 31, 37, 39, 41, 43, 45, 57, 59, 61, 65, 71, 73, 88, 97, 99, 107, 117 など 下巻 p.7, 15, 19, 29, 33, 49, 51, 69, 87, 89, 95, 99 など</p>
6	活動や体験を通じた思考と表現の一体化の指導に配慮されているか。	<ul style="list-style-type: none"> フィールドワークに見られるように、繰り返しの活動が丁寧に扱われている。また、各単元の学習場面では子どものつぶやきを受けた教師の支援と声かけ(セリフ)、そして主体的に活動できる手立ての具体例が内容に即して示されている。手立ての例としては、カードや絵・作文などが紹介されており、知的な気付きへの高まりが具体的に示されている。 <p>*本文ページ(単元ページ)の各所にこのような工夫が施されている。一例として上巻 p.18-33, 48-65, 74-91, 102-113 など 下巻 p.16-19, 32-35, 68-72, 94-99 など</p>
7	知的な好奇心を高め、科学的な見方・考え方の基礎を養う指導や自然の不思議さ面白さを味わう活動への配慮がされているか。	<ul style="list-style-type: none"> 児童が自然の事物・現象に対して関心をもち、関わりを深めながら自然の不思議さや面白さを実感できる構成になっている。例えば、「きせつと あそぼう」では、春・夏・秋・冬の学校、及び公園での定点観測イラストが掲載されている。比べたり、たとえたり、見通したりすることで、様々な気付きが生まれる構成になっている。また、遊び制作単元では、「材料でどうやって遊べるかを考える→試す→自分でつくれるおもちゃを考える→試す→グループで相談しながら考える→試す→より工夫してつくる→試す…」と、ものづくりを通して試行錯誤を繰り返しながら科学的思考への高まりを養う構成になっている。 <p>上巻 p.78-79, 82-90, 106-109 下巻 p.82-89, 94-99 など</p>
8	安全教育(防災・健康教育)の充実が図られているか。	<ul style="list-style-type: none"> 入学当初に行う通学路の様子を調べる活動をはじめ、安全を守ってくれる人々の存在を知ることなど、安全な登下校の指導が図れるように配慮されている。また、自然災害、交通災害、人的な災害にも目を向け、2年間を通してそれらに対応できるようになっている。そして、自分たちの生活には地域の人々や様々な場所が関わっていることにも気付けるように構成されている。 防災、減災に加え、夏場の水分補給や、動植物アレルギー、食物アレルギーへの配慮など、「日常の安全」という観点での配慮が十分になされている。 登下校や外での活動において、ランドセルカバー(1年生)、安全ワッペン(1年生)、防犯ブザー(全学年)の着用、帽子をかぶることなどが促されている。 <p>上巻 p.4, 16-17, 28-29, 61, 70, 85, 102, 134-135 下巻 p.32-33, 47, 124-125, 129 *本冊子 p.26-29 参照</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康については、上・下巻ともに「早ね・早起き・朝ごはん」の大切さを学び、自分の体と心の健康について意識できるように配慮されている。上巻 p.8, 26, 135 下巻 p.125

	観点の内容	観点への対応（構成と表現の工夫）
9	生命の尊さについての体験的な学習を重視した構成になっているか。	・ 自然の事物・現象に直接触れる体験や、動植物を自分たちで継続的に育てる活動を続けながら自然の素晴らしさや生命の尊さを実感できるような構成となっている。 上巻 p.34-47, 48-65, 66-73, 74-91, 100-113 など 下巻 p.22-39, 44-61 など
10	幼児教育と小学校教育との具体的な連携と適応への指導に配慮がされているか。	・ 上巻冒頭の、保幼小連携に対応したスタートカリキュラムのページ「いちねんせいになったら」に特色がある。「幼児期までに育てほしい10の姿」すべてに対応し、幼児期の学びを生かして安心して学校生活を送ることができるような構成になっている。また、生活科だけでなく、生活面、安全面など、様々な教育活動で活用できる内容となっている。 ・ また、児童の新しい環境への適応を第一に考え、幼稚園及び保育所との連携や幼児教育の成果を踏まえながら、友だちと交流し、安心して学校生活をスタートできるような構成となっている。 ・ 地域や家庭ともよく連携し、一体となって子どもたちの成長を支えるという構成で、継続的に関わりをもてるよう、各単元で園児と交流する場面が設けられている。 上巻 p.4-17, 90-91, 120-121, 123 など 下巻 p.14, 64-65, 73, 74-75, 78-79 など ※本冊子 p.20-21 参照
11	人との関わりに十分に配慮されているか。	・ 「きせつと あそぼう」「町たんけん」「もうすぐ2年生」などの各単元で幼児や園児とのふれあいの場面が取り上げられている（具体的には、「しょうたいしよう」<上巻 p.90>、「あたらしい1年生をしょうたいしよう」<上巻 p.120-121>の活動で園児を招待したり、一緒に活動したりする場面）。 ・ 高齢者や障がいのある人とのふれあいを大切に、「ふゆの生かつを たのしもう」（特設ページ）や、町たんけん単元、栽培単元、成長単元では、児童の祖父母や地域からのゲストティーチャーを迎えたり、お便りを通して交流したりする活動、イラストや写真を通して車椅子の児童等とふれあう機会などが設定されている。外国籍児童との活動についても繰り返し取り上げられている。 ・ 制作活動や町探検では、地域で働く人やお年寄り、外国人との交流場面が取り上げられている。栽培活動では農家の協力場面があり、地域の人材を生かした活動を随所に取り入れた構成となっている。 上巻 p.17, 20, 69, 90-91, 93, 95, 100-101, 120-121 など 下巻 p.4-5, 8-9, 13-15, 27, 31, 33, 38-39, 68-71, 75-79, 94-97, 102-103, 108-109, 111, 118 など
12	地域性、学校の独自性を生かせる内容になっているか。	・ 地域への愛着がもてるよう、地域とのつながりや継続的な関わりを丁寧に扱った内容となっている。学校や学区の実態に応じて展開できるよう、「町探検単元」「夏休み単元」「成長単元」などは、特に弾力的な活動が可能になる構成となっている。 ・ また、子どもの生活の場や地域を構成する諸条件を考慮して学校のもつ独自性を生かし、伝統・文化にふれる機会を設けつつ、柔軟な活動計画ができるように配慮されている。 上巻 p.28-29, 47, 50-53, 64-65, 76-79, 91, 97, 104-111 など 下巻 p.10-21, 26-27, 30-31, 40-43, 62-79, 108-111 など
13	他教科等との関連は図られているか。	・ 自分史をつくる、手づくり楽器で合奏や合唱をする、体験を絵や立体に表す、素材を利用して作品をつくるなど、各教科等との関連を図り、学習効果が高められるよう工夫されている。 ・ 国語との関連では、学習カード、作文、俳句、感想文など豊富な作品例が紹介されている。また、振り返りの学習を通じた表現活動で学習内容を再構築することで、質の高まりが図られている。 ・ 表記全体を通して国語との関連が意識されており、正しい字、文章の書き方が学べるよう、吹き出しや学習カードでは、教科書体に準じた書体が用られ、文頭は一字下げになっている。また、教科書に出てくるすべての文字について教科書体に準じた書体が使われている。 ・ 算数との関連では、上巻の草花単元で、取れた種の数を数える活動や、下巻の遊び制作単元でゲームの点数を計算する場面などが紹介されている。 ・ 音楽との関連では、音楽の授業を見学したり、先生と一緒に歌を歌ったりする場面や、「あそび名人になるう」の単元で合奏する活動の様子などが紹介されている。 ・ 図画工作との関連では、各単元のまとめとして、体験を絵や立体に表す、素材を利用して作品をつくり

		上げていくといった豊富な表現方法が紹介されている。 ※各単元の学習カード・振り返り・作文・手紙の場面を中心に 上巻 p.23, 26-27, 30-31, 36-37, 43, 45, 74-75, 114-123 など 下巻 p.35, 59, 87, 100-111 など ※本冊子 p.20-21 参照
14	伝え合い、交流する活動についてどのように配慮されているか。	・ 学習場面や「学びのまど（学習活動を振り返り、つなげるコーナー）」などにおいて、主体的、対話的な活動を生み出すような話し合いの場面や、その結果新しい課題を見つける場面などがその都度例示されている。 ・ 特に単元末には振り返りの場面を設け、共通体験後の伝え合いや交流活動ができるように配慮されている。 上巻 p.27, 29, 31, 41, 45, 48, 56-57, 61, 66, 70, 74, 82, 84-85, 90-91, 96, 110, 128-129 など 下巻 p.6-7, 8-9, 12, 15, 18-19, 25, 27, 28, 30-31, 33, 34, 40, 50-51, 66-79, 84-89, 94-99 など
15	道徳科との関連についてどのように配慮されているか。	・ 生活科の教科特性上、道徳との密接な関連があることに基づき、具体的な活動や体験を通して道徳教育の指導が適切に行えるよう配慮されている。 [善悪の判断、自律、自由と責任] 上巻 p.48, 74 下巻 p.15, 102-103 など [節度、節制] 上巻 p.16-17, 50-51, 74 下巻 p.20-21, 47, 124-125 など [親切、思いやり] 上巻 p.48, 90, 102, 120-121 下巻 p.8-9, 13 など [感謝] 上巻 p.28-29, 126-127 下巻 p.19, 108, 118 など [礼儀] 上巻 p.28-29, 102 下巻 p.13, 102-103 など [友情、信頼] 上巻 p.6-7, 118-119 下巻 p.6-7, 98-99, 102-103 など [規則の尊重] 上巻 p.8-9, 48, 74, 102 下巻 p.13, 118-119 など [伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度] 上巻 p.91, 100-101 下巻 p.68, 75, 129 など [生命の尊さ] 上巻 p.48, 70-73 下巻 p.26-27, 50-51 など
16	発展的な取り扱いについての配慮がされているか。	・ 低学年の生活科から3年生以降の学習へつながるよう、情報・環境・国際理解・福祉・健康・食育などの課題に結び付く内容が取り上げられている。例えば、環境教育につながるものとして「環境を守る工夫やリサイクルについて」、福祉への理解の一步として「ユニバーサルデザインとバリアフリー」、「点字や手話の体験」、国際理解につながる体験として「外国から伝わるお祭り」などがあげられる。 上巻 p.48, 101, 116-117, 143 下巻 p.19, 78-79, 100-109, 123, 130-131, 142-143

5-① 学習指導要領総則との関連における特長的な構成

観点	構成とその対応	該当箇所
1 育成すべき資質・能力の三つの柱との関連	知識及び技能の基礎	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わりなどに気付くこと（知識）。 ・ 生活上必要な習慣や技能（技能）。 ➡各ページの学習の中で児童に気付かせたい知識や身に付けさせたい技能の例が、見開き左下の水色の本のマークのところに簡易な文章で示されている。 上巻 p.20, 24, 26, 28 など 下巻 p.12, 14, 16 など ➡児童が身近な人々や社会、自然などとの関わりから個性的・個別的に気付いている学習活動の事例が、挿絵や写真、吹き出し、表現作品などで示されている。 上巻 p.44, 50-51, 52-53 など 下巻 p.12-13, 16-17, 48-49 など ➡単元を通して必要となる知識及び技能は「ポケット図かん」、様々な場面で身に付けさせたい知識及び技能は巻末図鑑の「ちえとわざのたからばこ」に整理された形で豊富に示されている。 上巻 p.54, 62 下巻 p.20, 38 など 上巻 p.124-143 下巻 p.112-135 など
	思考力、判断力、表現力等の基礎 ※ p.48 へつづく	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身近な人々、社会及び自然を自分との関わりとして捉える。 ・ 自分自身や自分の生活について考え、表現する。 ➡それぞれの学習で児童が自分との関わりで捉えたり、自分自身や自分の生活について考え、表現したりする活動を促す例が、見開き左下の黄土色の電球マークのところに簡易な文

育成すべき資質・能力の三つの柱との関連	<p>章で示されている。 上巻 p.22, 26, 30 など 下巻 p.8, 14, 16 など</p> <p>→様々な場面で育成したい思考力、判断力、表現力等の具体例が、巻末図鑑の「ちえとわざのたからばこ」の「学び方」に整理された形で豊富に示されている。 上巻 p.126-131 など 下巻 p.114-119</p> <p>→児童が主体的に考える場面としての「見つける」「比べる」「たとえる」などの多様な学習活動の事例が、挿絵や写真、吹き出し、表現作品などで示されている。 上巻 p.82, 84, 94-95, 50-51, 76-77, 104-105 など 下巻 p.18-19, 30, 84-85 など</p> <p>→児童の主体的な思考を促すための教師の指導・支援の例が明示されている。 上巻 p.23, 36, 56-57, 110 など 下巻 p.50, 74, 94, 104 など</p> <p>→気付いたことや考えたこと、楽しかったことなどを伝える場合に言葉、絵、劇などの多様な表現方法を相手に応じて選択するといった問題解決的な学習活動の事例が、挿絵や写真、吹き出し、表現作品などで示されている。 上巻 p.30-31, 72, 118, 120 など 下巻 p.18-19, 34-35, 42-43, 58-59, 72 など</p>
	<p>・身近な人々、社会及び自然に児童が思いや願いをもって自ら働きかける。 ・意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとする。</p> <p>→それぞれの学習で上記太字のような例が、見開き左下の赤色のハートマークのところに簡易な文章で示されている。 上巻 p.28, 30, 86 など 下巻 p.18, 78, 104 など</p> <p>→児童が自らの思いや願いに基づいた活動を経験したことから、満足感や達成感などの気持ちを味わっている姿が、挿絵や写真、吹き出し、表現作品などで示されている。 上巻 p.30-31, 45, 88 など 下巻 p.18-19, 58-59, 98-99 など</p> <p>→児童が主体的に経験した学習活動をもとに、自らの生活をより豊かなものにしていこうとする意欲をもっている姿が、挿絵や写真、吹き出し、表現作品などで示されている。 上巻 p.60-61, 86-87, 98-99 など 下巻 p.36-37, 78-79, 94-95</p> <p>→児童が自分自身の取り組みや成長を振り返って自信を付けていく姿が、挿絵や写真、吹き出し、表現作品などで示されている。 上巻 p.45, 98-99, 110, 122-123 など 下巻 p.104-105, 108-109 など</p>
<p>思考力、判断力、表現力等の基礎</p>	<p>学びに向かう力、人間性</p>

カリキュラム・マネジメントとの関連	<p>児童・学校、地域の実態を適切に把握している</p> <p>・児童の生活経験や既体験に関する気付きをもとに学習活動を展開していく事例が、挿絵や吹き出し、表現作品などで示されている。上巻 p.48, 66, 74, 102 など 下巻 p.44-51, 64-65, 102-103 など</p> <p>・地域の中にある公園を学習の場として設定し、繰り返し関わりながら季節の変化に気付く学習活動や、地域の中で生活している人々に関わる学習活動が展開していく事例が、挿絵や吹き出し、表現作品などで示されている。上巻 p.50-51, 76-77, 104-105 など 下巻 p.14-15, 31, 76-79</p>
	<p>教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てている</p> <p>・児童の学習活動の必要性から他教科等との関連が図られている事例が、挿絵や写真、吹き出し、表現作品などで示されている。 上巻 p.13 (国、算、体、音、図), 45 (国), 59 (図), 91 (国) など 下巻 p.29 (算), 59 (国), 86 (音) など</p> <p>・中学年以降の学習への発展を意識した事例が、挿絵や写真、吹き出し、表現作品などで示されている。 上巻 p.39 (理) 下巻 p.84-85 (理), 110-111 (国、図、音、理、社、外、体) など</p>
	<p>教育課程の実施状況の評価・改善を行っている</p> <p>・児童との振り返りを通して学習状況の評価を行ったり、次の学習課題を設定したりする事例が、挿絵や吹き出し、表現作品などで示されている。 上巻 p.98-99, 110-111 など 下巻 p.36-37, 98-99 など</p>
	<p>教育課程の実施に必要な人的・物的な体制を確保している</p> <p>・児童の学習内容に沿った人々との出会いを意図的・計画的に配置している事例が、挿絵や写真、吹き出しなどで示されている。 上巻 p.17, 25, 28-29, 94-95 など 下巻 p.14-15, 31, 78-79 など</p>

観点	構成とその対応	該当箇所
教科等横断的な視点との関連	言語能力	<p>・様々な場面で身に付けさせたい言語能力は巻末図鑑の「ちえとわざのたからばこ」に整理された形で豊富に示されている。上巻 p.126-129 など 下巻 p.116-119</p>
	情報活用能力・プログラミング教育	<p>・実物投影機や電子黒板の活用事例が、発達の段階に合わせて挿絵や写真、吹き出し、表現作品などで示されている。上巻 p.36, 79 など 下巻 p.18, 29, 58, 72, 123 など</p> <p>・プログラミング教育に関わる論理的思考力を育てる学習活動の事例が、挿絵や写真、吹き出し、表現作品などで示されている。具体的には、町探検に行く前に、あらかじめ質問を決めておき、回答によってさらに次の質問を考えておく、という展開であり、プログラミングの基本である「条件分岐」「繰り返し」の考え方が無理なく実践できる例として取り上げられている。下巻 p.115 (場合分けする)</p>
	問題発見・解決能力	<p>・問題解決的な過程を充実させた学習活動の事例が、挿絵や写真、吹き出し、表現作品などで示されている。 上巻 p.36-37, 40-41, 70-71 など 下巻 p.6-9, 30-31, 46-47, 86-89 など</p>
	現代的な諸課題	<p>・「環境」「人権」「防災」などの現代的な諸課題に対応した学習活動の事例が、挿絵や写真、吹き出し、表現作品などで示されている。下巻 p.130-131 (環境), 上巻 p.69 (障がいのある児童の参加), 上巻 p.17 下巻 p.76 (障がいのある人との関わり), 上巻 p.16-17, 134-135 下巻 p.124-125 (安全・防災)</p>
教育課程の編成との関連	2学年間を見通した指導計画	<p>・2学年間にわたって取り扱う動物や植物への関わりを通して生命の尊さを実感する学習活動の事例が、挿絵や写真、吹き出し、表現作品などで示されている。 栽培単元 上巻 p.34-47, 下巻 p.22-39 飼育単元 上巻 p.66-737, 下巻 p.44-61 など</p>
	学校段階等間の接続	<p>幼児期教育との接続</p> <p>・幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた学習活動の事例が、挿絵や写真、吹き出し、表現作品などで示されている。 上巻 p.4-17, 36, 66, 90, 105, 120-121 など 下巻 p.64-65, 73, 78-79 など</p> <p>中学年以降の教育との接続</p> <p>・中学年以降の教育との円滑な接続を図った学習活動の事例が、挿絵や写真、吹き出し、表現作品などで示されている。下巻 p.29 (理・算), 102-103 (社・音・道), 110-111 (国、図、音、理、社、外、体) など</p>
主体的・対話的で深い学びとの関連	問題解決的な学習過程の充実	⇒ p.49 3参照。
	言語能力	⇒ p.49 3参照。
	情報活用能力	⇒ p.49 3参照。
	児童が学習の見通しを立てたり振り返ったりする活動	<p>・児童が生活経験や既体験に関する気付きをもとに学習活動を見通していく事例が、挿絵や吹き出し、表現作品などで示されている。上巻 p.48, 66, 74, 102 など 下巻 p.44-47, 50-51, 102-103 など</p> <p>・児童が自分自身の取り組みや成長を振り返って自信を付けていく姿が、挿絵や写真、吹き出し、表現作品などで示されている。上巻 p.45, 98-99, 110, 122-123 など 下巻 p.104-105, 108-109 など</p> <p>・児童が生命の有限性や自然の大切さについて主体的に気付いていく学習活動の事例が、挿絵や写真、吹き出し、表現作品などで示されている。上巻 p.41, 50-51, 76-77, 104-105 (公園での季節の変化を定点観測的に見る), 54-55, 58-59, 70-71 など 下巻 p.56-61, 130-131</p>

体験活動や家庭や地域社会との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童が多様な他者と協働する学習活動の事例が、挿絵や写真、吹き出し、表現作品などで示されている。 上巻 p.26-27, 41, 91, 101, 120-121 など 下巻 p.8-9, 26-27, 31, 61, 76-77 など
学校図書館や地域の諸施設の活用	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童の学習内容に沿って学校図書館や地域の諸施設を意図的・計画的に活用している事例が、挿絵や写真、吹き出しなどで示されている。上巻 p.23, 26, 47, 50-51, 76-77, 104-105 (公園での季節の変化を定点観測的に見る) 下巻 p.7, 10-19, 132-133 など

観点

構成とその対応

該当箇所

6 児童の発達の支援との関連	教師と児童との信頼関係	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教師が集団の場面で必要な指導や援助を行うなどのガイダンス的な指導を行っている事例が、挿絵や写真、吹き出しなどで示されている。 上巻 p.36, 56-57, 82, 98 など 下巻 p.6, 18, 25, 50 など ・ 個々の児童の実態を踏まえ、個別に対応したカウンセリング的な指導を行っている事例が、挿絵や写真、吹き出しなどで示されている。 上巻 p.57 (振り返る・つなげる), 66, 107 など 下巻 p.19 (ふりかえる・つなげる), 34, 51
	児童の自己実現につながる指導	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多様な学習活動を通して、児童が自信を付けたり成長を実感したりする姿が、挿絵や写真、吹き出し、表現作品などで示されている。 上巻 p.114-123 など 下巻 p.99, 100-111 など
	キャリア教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校内や地域の様々な人との関わりを通して、大人が仕事をする事のよさや意味などに児童が気付く姿が、挿絵や写真、吹き出し、表現作品などで示されている。 上巻 p.26-29, 73, 122-123 など 下巻 p.18-19, 35, 78-79, 110-111 など
	障がいのある児童への指導の配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・ 障がいのある児童が主体的に学習活動に参加している姿が挿絵などで示されている。 上巻 p.20, 30, 69 など 下巻 p.21, 132-133, 134-135 など
	グローバル化・国際化への配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・ 多様な国・地域にルーツをもつ人や児童が登場したり、外国に由来する文化などを紹介したりする事例が示されている。 上巻 p.43, 100 (外国人子女との協働的な学習場面), 101 (春節：中国の獅子舞) など 下巻 p.21 (外国語表記が併記された看板類), 79, 100-101 (外国人子女との協働的な学習場面), 111 など

7 道徳教育との関連	⇒ p.47 15 参照。
---------------	---------------

5-② 様々な教育活動との関連における特長的な構成

観点	該当箇所
1 人権・福祉の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体を通して、登場する人物の男女比を同程度にしている。 ・ 障がいのある人を支える社会システムやそれらの人との関わり方についての事例が示されている。 上巻 p.17, 20, 28, 102 など 下巻 p.20-21, 64-65, 78-79, 132-135 など
2 伝統文化・郷土の視点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伝統文化や郷土の特色などに児童が関心をもって関わる学習活動の事例が挿絵や写真、吹き出しなどで示されている。上巻 p.90-91, 100-101 など 下巻 p.15, 129 など

3 環境教育への配慮	身近な環境への気付き	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の諸施設や学校内で、職員などが様々な環境美化に取り組む様子に児童が気付く事例が、挿絵や写真、吹き出しなどで示されている。上巻 p.20, 30, 50-51, 76-77, 104-105 (公園での季節の変化を定点観測的に見る), 142-143 など 下巻 p.64-65, 78-79, 130-131 など
	ESD、SDGsへの理解	<ul style="list-style-type: none"> ・ 持続可能な開発や生活のあり方について、児童が主体的に気付くことを促す事例が、挿絵や写真、吹き出しなどで示されている。下巻 p.122, 130-131

4 東京2020オリンピック・パラリンピックとの関連	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「アスリートプロジェクト」に参加した児童が、泳ぎがもっとうまくなりたい、将来オリンピックに出場したい、という夢をもって成長していくストーリーが上・下巻に渡って示されている。上巻 p.122 下巻 p.40, 111
-------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

6 正確性及び表記・表現

観点	構成とその対応
1 文章の書体は適切か。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国語との関連から、正しい字、文章の書き方が学べるよう、吹き出しや学習カードでは、教科書体に準じた書体が用いられ、文頭は一字下げになっている。また教科書に出てくるすべての文字について教科書体に準じた書体が使われている。
2 言葉の表記は適切か。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 発達の段階を考慮し、上巻のスタートカリキュラムから夏休み単元まで<上巻 p.4-65>は、ひらがなのみ、夏休み以降はカタカナに加えて、1年配当漢字がふり仮名付きで表記されている。下巻では、1年・2年配当漢字が、ふり仮名付きで表記されている。 ・ 子どもが日常的に使う言葉や、よく目にする単語などは、必要に応じて2年生以降の配当漢字もふり仮名付きで表記されている。 ・ 読みやすさに配慮し、文章は文節で改行されている。
3 言葉の表現は工夫されているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの気付きを促す説明や、子どもの思考・創意工夫を引き出す言葉が随所に用意されている。 ・ 見出しや子どもが作成したワークシート、作文、手紙、俳句などの例示は、児童の詩情や心情を捉え、主体的な活動を呼び起こすように考慮されており、言語活動の充実が図られている。 上巻 p.45, 91, 107 など 下巻 p.35, 69, 105, 106-107 など
4 写真は効果的に表現されているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ほぼすべての活動情景写真において、全国で行われている実際の授業写真が掲載されている。写真の中の子どもたちの生き生きとした表情、ダイナミックな構図から、子どもが思わず「やってみたい」となるような構成となっている。 ・ 教科書を見た子どもが、学習内容に関心をもち、創意工夫にあふれ対話に満ちた活動のきっかけをイメージできるよう、表現されている。 ・ すべての写真が、明るく、鮮明であり、色彩も最適に調整されている。
5 イラストは効果的に表現されているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習場面の様子は、すべて学習モデルとして成立するように描かれており、教師の立ち位置、言葉かけ、支援の様子だけでなく先生や友だちが話している時は必ず話を聞く、グループワークの時は主体的・対話的に話し合うなど、学習規律の参考にもなるように描かれている。 ・ 写真では表しきれない学習の手立てや活動の流れを細やかに取り込み、児童が学習の見通しをもちやすい表現になっている。 ・ 上・下巻ともに、メインとなるイラストは同じ作家で統一されており、2年間を通じて親しみやすく、学習しやすくなるよう配慮されている。また、側欄などそれ以外のイラストは内容に適したタッチで、適宜割り振ってバランスよく描かれている。 ・ 発達の段階や学校生活の実態を考慮し、丁寧に事実確認がなされており、正確に、わかりやすく表現されている。

6	紙面の構成は工夫されているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元ごとにイメージカラーとアイコンを設定し、どの単元、どのページを開いているのかが、わかりやすく構成されている。また、それぞれの単元や資質・能力の三つの柱（学習のめあて）を示したコーナーにもわかりやすいアイコンを示し、色だけによらない判別ができるようカラーユニバーサルデザインの観点から工夫されている。 ・ スタートカリキュラムや巻末図鑑・各単元末の図鑑など、資料性の高いページは、単元のページと容易に区別できるよう、ページ番号のデザインが工夫されている。また、上巻冒頭、スタートカリキュラムの特設ページは、後に続くページと区別でき、入学したばかりの1年生が親しみをもてるよう、角を丸くする加工がなされている。 ・ 単元扉、活動場面、振り返り場面、「ポケット図かん」など、それぞれのページでのまとまりを意識した構成で、子どもがストーリーをつかみながら、感情移入しやすい紙面になっている。
7	視覚活用に支援を要する児童への配慮はされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特別支援教育の専門家が監修を行い、文字組み、デザイン、色づかい、など、視覚活動に支援を要する児童も使用できるように、カラーユニバーサルデザインに配慮されている。 ・ 教科書をモノクロコピーしても通常のカラーの教科書同様に活用できるようデザインされている。

7 造本

観点	構成と対応
1 印刷は適切か。	・ 全ページ4色刷り（フルカラー）、鮮明な色調と文字で印刷されている。
2 紙質は適切か。	・ 美しい印刷の品質を保ちながら、専用紙を従来のもより15%ほど軽量化し、児童の負担を減らす配慮がされている。
3 製本は工夫されているか。	・ 耐久性があり、堅牢性が高く、ページが広く開きやすい「あじろ綴じ」で製本されている。
4 教科書の大きさ（判型）は工夫されているか。	・ 横 A4、縦 B5 サイズの AB 判とし、ランドセルや机に入る条件を満たしながら、絵本のように見やすく、横に広がるダイナミックな紙面構成ができる、学習効果の高い判型が採用されている。
5 造本は工夫されているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上巻冒頭、スタートカリキュラムの特設ページは、他と区別でき、入学したばかりの1年生が親しみをもてるよう、角を丸くする加工がなされている。上巻 p.4-17 ・ 実際の点字と同じ規格の「盛り上がり印刷」を施し、点字を触って学習できる加工がなされている。下巻 p.135 ・ 表紙には美しく丈夫で汚れにくい表面加工が施されているが、名前の記入欄だけは書きやすいように加工を除く配慮がされている。
6 カラーユニバーサルデザインの配慮はされているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「盛り上がり印刷」で凸部分をつくるなど、児童が点字を直接体験できるページを用意し、障がいのある人への関心を高める工夫がされている。下巻 p.135 ・ コントラストが大きく、視認性の高い写真を使用している。 ・ 見分けづらい配色を避け、テキストやアイコンを付加するなど、色による表現だけにしないよう、視覚活用に制限のある児童への配慮がされている（教科書をモノクロコピーしても内容がわかるよう配慮されている）。
7 用紙や印刷は、安全や環境に配慮されているか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 表紙の表面加工は、化学物質に敏感な子どもにもやさしいものになるよう配慮されている。 ・ 植物油インキと再生紙を使用し、環境にもやさしい本づくりがされている。

8 学習指導要領との対照表

図書の構成・内容	学習指導要領の内容									ページ	配当授業 時数		
	内容												
	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)				
[予備時数 8]													
いちねんせいになったら	◎								○	○	1- (1)、1- (4)、1- (6)、 2- (4)、2- (5)、2- (6)	4-17	(8)
がっこうをたんけんしよう	◎			○						○	1- (1)、1- (2)、1- (4)、1- (5)、 2- (1)、2- (4)、2- (5)、2- (6)	18-33	(10)
きれいなはなをさかせたい					○		◎		○		1- (1)、1- (2)、1- (3)、 1- (4)、1- (6)、2- (3)	34-47	(14)
きせつとあそぼう — はるから なつ —	○			○	◎	○					1- (1)、1- (5)、1- (6)、 2- (3)	48-65	(14)
生きものとなかよくなるろう	○				○		◎		○		1- (1)、1- (2)、1- (3)、 1- (5)、1- (6)、2- (3)	66-73	(6)
きせつとあそぼう — あき —	○			○	◎	○					1- (1)、1- (5)、1- (6)、 2- (3)、2- (4)	74-91	(14)
じぶんでできるよ		◎								○	1- (1)、1- (6)、2- (6)	92-99	(8)
きせつとあそぼう — ふゆ —	○			○	◎	○					1- (1)、1- (5)、1- (6)、 2- (3)	100-113	(10)
もうすぐ2年生		○							○	◎	1- (1)、1- (3)、1- (4)、1- (6)、 2- (2)、2- (4)、2- (5)、2- (6)	114-123	(10)

[94+予備時数8=102]

下巻

[予備時数 11]

2年生がはじまるよ	○								◎	○	1- (1)、1- (4)、1- (6)、 2- (5)、2- (6)	4-9	(4)
町たんけん1 — みんなでつかう場しょへ行こう —			◎	◎						○	1- (1)、1- (2)、1- (5)、1- (6)、2- (1)、 2- (2)、2- (4)、2- (5)、2- (6)	10-21	(8)
ぐんぐんそだて みんなの野さい					○			◎		○	1- (2)、1- (3)、1- (6)、 2- (2)、2- (3)、2- (6)	22-39	(16)
夏休みを楽しくすごそう		○				○	○			◎	1- (1)	40-43	(4)
生きものはかせに なるろう					○	○		◎		○	1- (1)、1- (2)、1- (3)、 1- (6)、2- (3)	44-61	(14)
町たんけん2 — グループで出かけよう —			◎	○						○	1- (1)、1- (2)、1- (5)、1- (6)、 2- (1)、2- (2)、2- (5)、2- (6)	62-79	(18)
あそび名人に なるろう							◎			○	1- (1)、1- (4)、2- (2)、2- (3)、 2- (4)、2- (5)、2- (6)	80-99	(18)
こんなに大きくなったよ — 広がれわたし —		○	○							◎	1- (1)、1- (4)、1- (6)、 2- (4)、2- (5)、2- (6)	100-111	(12)

※各単元で、学習指導要領において特に中心となる内容を◎、中心となる内容を○として示しています。

※配当授業時数については、各学校の実情に応じて弾力的に組み立てられるよう、上下巻に予備時数を設けています。

[94+予備時数11=105]